

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

第7章

第8章

第9章

第10章

第11章

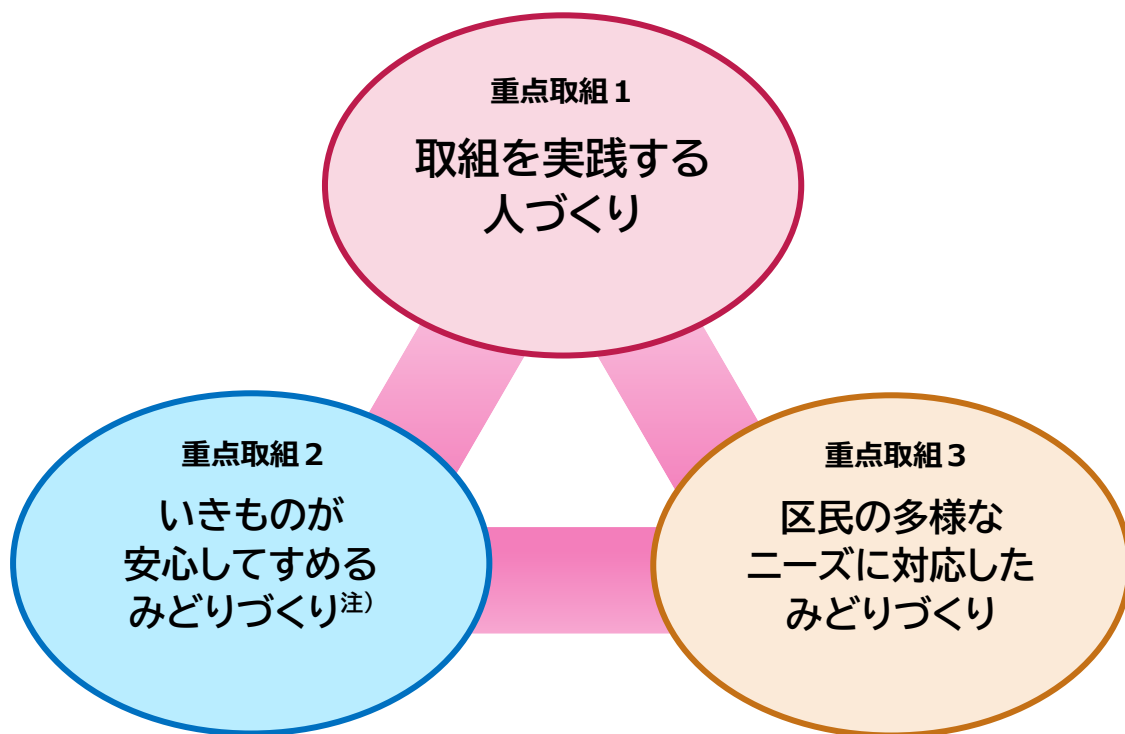
資料編

第9章 重点的取組

9-1 重点的取組の趣旨

重点的取組は、本計画に掲げる3つの目標を効果的に達成していくために、重点的に取り組む施策です。将来像の実現に向けて、生物多様性の保全に係る取組を基盤に位置付けるとともに、みどりの保全・創出・育成・活用を図るためには、区民、団体、事業者等のあらゆる主体が、協働し活動に取り組むことが重要です。

そのため、重点的取組は、パートナーシップによって人やいきものにとってすみよいみどりづくりを推進することを重視した3つのテーマを設け、特に重要な施策を位置付けます。



注) ここでは、高木・低木・地被類といった階層構造を持たせたり、実のなる木を植えて野鳥などの餌場をつくったり、落ち葉を適度に残し土壌生物の生息環境を守るなど、様々ないきものの生息に適した環境をつくることを「いきものが安心してすめるみどりづくり」とします。

図9-1 重点的取組の概念図

9-2 重点的取組の内容

重点的取組(1) 取組を実践する人づくり



様々な主体とのパートナーシップを築き、相互に連携しながらいきものやみどりに関する取組を推進することは、本計画の将来像を実現するうえで大きな原動力となります。そのため、広く区民や事業者等の参加を促し、協働の裾野を広げていくことが求められます。

取組を実践する人づくりにあたっては、図9-2に示す「区民参加の3ステップ」を基本に取組を有機的に繋げ、これまでいきものやみどりについて関心を持つきっかけがなかった区民等を取り込みながら(知る、気づく)、講座や自然体験活動等で学ぶ機会を提供し(学ぶ)、将来的に活動へ参加することや主体的に行動する(活動する)ことを後押しする仕組みを推進します。

推進施策

- 施策 8 いきものについて知る機会の充実
- 施策 21 みどりを通じた活動の場の提供
- 施策 24 農地を通じたみどりとの触れ合い
- 施策 25 積極的な情報発信と共有
- 施策 26 区民や事業者の参加を促す仕組みづくり
- 施策 28 学びの場の多様化による人材育成の推進

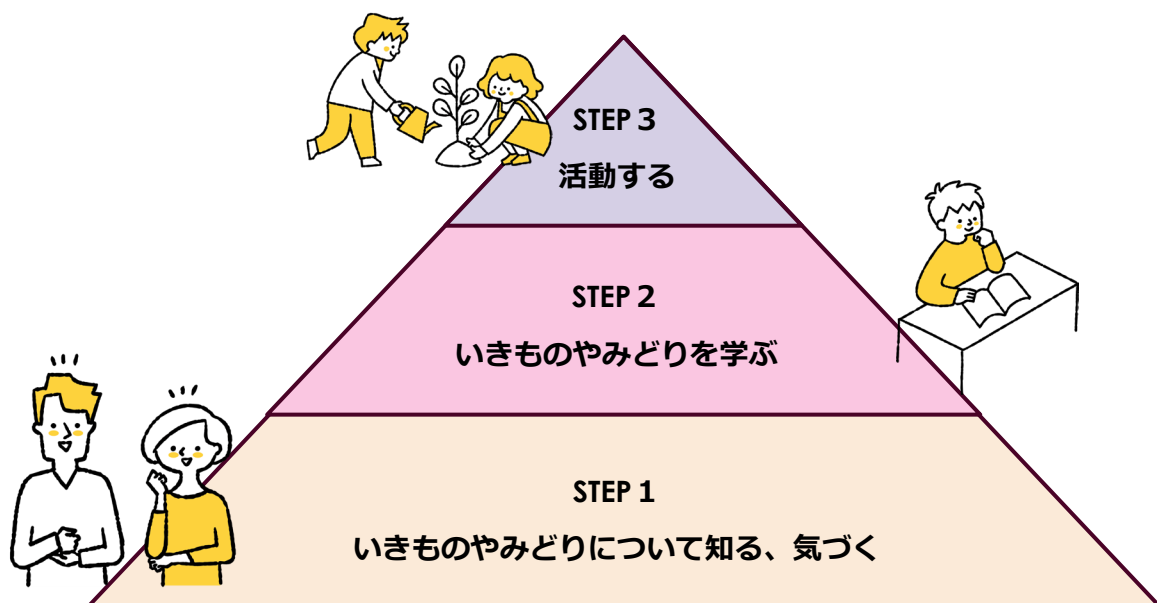


図9-2 区民参加の3ステップ

コラム 取組を実践する人づくりの活動事例

事例1 駒場野公園での活動事例

駒場野公園の自然観察舎は、駒場野公園の自然観察やボランティア活動の拠点となっています。

駒場野公園が開園した昭和 61(1986)年当初から活動している駒場野自然クラブは、雑木林の管理や自然観察などの活動を通年行っており、身近な自然とのふれあいやいきものとの出会い、草刈りや炭焼きなどの作業が子どもたちの貴重な原体験となっています。

また、駒場野公園では令和7(2025)年現在、4つの公園活動登録団体が活動しています。

『駒場野里山ホタルの会』は、駒場野公園の大池とケルネル田んぼに昭和 26(1951)年頃まで自然発生していたホタルがすめるような里山の環境を復活させる取組を実施しています。『こまばりボンクラブ』は、公園内の環境学習施設を活用して生ごみ堆肥づくりと公園内の土壌改良育成などを行っています。『森のみどり人』は、樹木の手入れや下草刈りなどの雑木林の管理や植生調査を行っています。『駒場プレーパークをつくる会』は、こども主体の自由な外遊びのイベントを実施しています。

このように、各種団体が活動する駒場野公園では、地域や幼稚園・学校の環境学習の場、自然との触れ合いの場として多くの子どもたちが体験する機会が充実しています。



自然観察舎



ほだ木の切り出し

事例2 中目黒公園での活動事例

平成 14(2002)年3月にオープンした中目黒公園では、公園整備の計画段階から多くの区民が参加し、開園後も『いきもの池』、『みんなの花壇』、『原っぱ』、『健康とスポーツの広場』で区民が主体的に管理活動を行っています。また、公園のビジターセンターとしての役割を持つ『花とみどりの学習館』は、目黒区から委託を受けた民間企業が管理運営を行い、「地域と人とみどりをつなぐ」をビジョンに掲げ、ボランティア団体の活動の周知や区民の参加を促すなど支援を行っています。

『花とみどりの学習館』の取組では、様々な体験プログラムが提供されています。『花みどり人講座』は、公園を支えるボランティア養成講座で、講義や実習を通じて、自然の仕組みや生命のつながりを理解し、自然環境に配慮した園芸の手法を学ぶことができます。



花とみどりの学習館

『エコ・園芸生活講座』では、生ごみ堆肥づくりをはじめとして、自然環境に配慮した園芸を学ぶ講座です。植物の栽培から利用法まで幅広く取り上げ、自宅の生活にも取り入れられる循環型園芸を紹介しています。『野あそびくらぶ・楽田(らくだ)クラブ』では、農作業・収穫等の体験を通して、公園が子ども達の土やいきものに親しむ場となるような親子農体験連続講座を行っています。

また、『花とみどりの学習館』では、『五感の庭植物展示』や『公園の自然を楽しむ展示』を常時行っており、園芸のアドバイスや公園活動登録団体の紹介なども行っています。



畑での実習のようす

事例3 菅刈公園での活動事例

菅刈公園は、明治時代に「東都一の名園」と言われた当時の姿を一部復原した公園として整備され、園内には芝生広場・子どもの遊び場・斜面の緑地を保全する区域をもうけるとともに、復原庭園のわきには、展示室・和室・庭園展望室をそなえた和館が設置されています。

菅刈公園では、令和7(2025)年現在、『NPO 法人菅刈ネット 21』が公園活動登録団体として、公園の清掃、除草、イベントの実施等を行っています。特に、多くの子どもたちが参加する『菅刈椎塾』では、いきものやみどりに詳しい区の職員や専門家を講師に、木こり体験や椎茸の菌打ち、巣箱の取り付け、いきもの観察など、活動を通じて季節の移り変わりを身近に感じながら公園の生態系への理解を深める活動を随時行っています。



菅刈公園の復原庭園



親子でノコギリを使って枝払いを行い、太い幹はチェーンソーでほだ木に加工します。



保護者がドリルを使ってほだ木に穴を開け、子どもたちが木づちで菌コマを打ち込みます。



公園のドングリから育てたシラカシとクヌギの苗木をビオトープ沿いに植えました。

重点的取組(2) いきものが安心してすめるみどりづくり



目黒区で見かける野鳥は、生態系の健全性を示すバロメーターとして機能します。食物連鎖の頂点にいる野鳥が元気に暮らしているということは、その下にいる昆虫や植物なども健康に育っているというしるしです。

野鳥をはじめいきものが安心して暮らせる豊かなみどりは、私たち区民にとっても大きな恵みをもたらします。緑地は空気をきれいにし、気温を下げ、雨水を蓄えるなど、都市生活を快適にする「自然のインフラ」として働いています。つまり、いきものが快適に過ごせる環境をつくることは、単に自然を守るだけでなく、私たち住民がより良い環境で暮らすための基盤づくりに繋がっていきます。

野鳥が安心してすめるみどりづくりを進めることで、目黒区は人と自然が調和した、持続可能なまちを実現していきます。

推進施策

- 施策 2 未来に向けた樹木の保全の推進
- 施策 3 拠点となるみどりの保全とネットワークの形成
- 施策 4 生態系に配慮した緑化の推進
- 施策 9 区民が参加できる生物多様性保全活動の推進
- 施策 11 脱炭素社会の実現に向けた取組の推進
- 施策 13 未来に残す「農の風景」

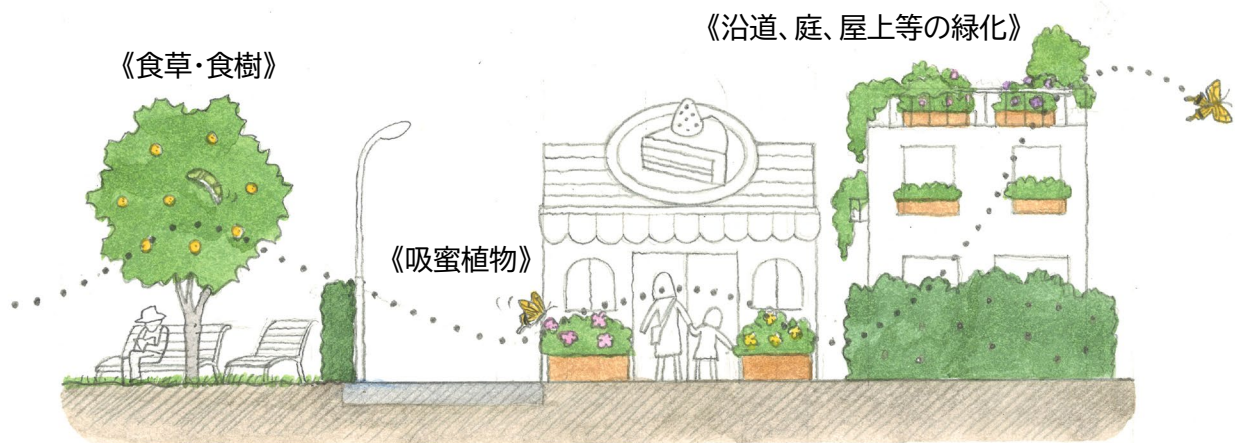


図9-3 チョウがすめるみどりづくりの例

重点的取組(3) 区民の多様なニーズに対応したみどりづくり



区民意向として、季節の変化を楽しむ花壇づくり、子どもが自由に自然とふれあえる場所づくり、健康遊具等を利用した健康づくり、五感で自然を楽しむ散歩道の整備、雨庭の整備、乳児・幼児向け遊具の設置など、みどりに対する様々なニーズがあることがわかっています。

これらの区民ニーズに対応したみどりづくりは、区民にとってすみよいまちが形成されるだけでなく、区民がやってみたいことの自己実現を図る機会になり、区民のWell-being(幸福)の追求に繋がります。

区民一人ひとりのニーズに寄り添ったみどりづくりによって、目黒区全体の魅力を向上し、すべての区民が住みやすく、誇れるまちづくりを推進します。

推進施策

- 施策 1 みどり豊かな住環境の形成に向けた取組の推進
- 施策 14 みどりを活かした防災への取組
- 施策 17 子育てに利用しやすい公園の整備
- 施策 18 心身の健康づくりが行える公園等施設の充実
- 施策 27 多様な人が活躍できるみどりの活用
- 施策 29 民間の活力を活かした魅力あるみどり空間の創出

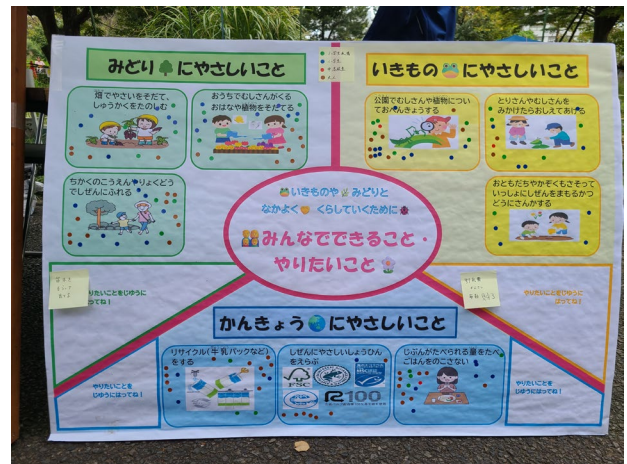


写真9-1 区民ニーズの聞き取りの例(中目黒公園祭)

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

第7章

第8章

第9章

第10章

第11章

資料編

9-3

推進施策の成果指標と目標

重点的取組に位置付けた施策は「推進施策」とし、下表に示すとおり成果指標と目標を設定します。

表 9-1 推進施策の成果指標と目標

重点的取組	推進施策	指標・目標	現状	目標
(1) 取組を実践する人づくり	施策 8 いきものについて知る機会の充実	いきものや自然に関する情報発信	実施	継続
		区民と連携した生物調査の実施	実施	継続
	施策 21 みどりを通じた活動の場の提供	ボランティアが活動する公園等のか所数	68 か所	増加
	施策 24 農地を通じたみどりとの触れ合い	農業体験の場の活用件数(体験農園+公園内事業)	11 件	増加
	施策 25 積極的な情報発信と共有	デジタルアーカイブの閲覧数	777 件	増加
		みどりに係るフォーラムの開催	実施	継続
	施策 26 区民や事業者の参加を促す仕組みづくり	緑地認証制度への誘導	未実施	実施
生物多様性に配慮した行動を実施している区民の割合		調査未実施	40%	
施策 28 学びの場の多様化による人材育成の推進	花みどり人講座の参加人数	9人/年	増加	
	交流・情報共有等のデジタル化	未実施	実施	
(2) いきものが安心してすめるみどりづくり	施策 2 未来に向けた樹木の保全の推進	保存樹木指定本数(本)	666 本	860 本
		保存樹林指定面積(m ²)	81,504.63 m ²	増加
	施策 3 拠点となるみどりの保全とネットワークの形成	まちなみ助成による接道部緑化延長【累計】(m)	11,587.54m	13,000m
		まちなみ助成による屋上緑化、壁面緑化面積【累計】(m ²)	5,896.31 m ²	8,000 m ²
		生物多様性保全林指定か所数	3 か所	6か所
	施策 4 生態系に配慮した緑化の推進	緑化指導件数【累計】(件)	7,566 件	増加
		公共施設の緑化面積(m ²)	8274.94 m ²	増加
		苗木の配布数	1,248 本	継続
	施策 9 区民が参加できる生物多様性保全活動の推進	自然通信員の登録者数	1,200 世帯	1,500 世帯
		いきもの气象台の情報提供数	2,302 件	増加
施策 11 脱炭素社会の実現に向けた取組の推進	みどりのまちなみ助成実績件数(屋上緑化、壁面緑化)	2件	増加	
施策 13 未来に残す「農の風景」	生産緑地地区の指定面積(m ²)	12 地区 1.89ha	維持・増加	
(3) 区民の多様なニーズに対応したみどりづくり	施策 1 みどり豊かな住環境の形成に向けた取組の推進	民有地の緑化面積(m ²)	13,891.20m ²	増加
		樹木等の保全協議による保全された樹木数【累計】	1,054 本	増加
	施策 14 みどりを活かした防災への取組	グリーンインフラの導入数	2公園	7公園
		公園での防災活動実施数	50件/年	継続
	施策 17 子育てに利用しやすい公園の整備	公園等を活用した子どもの居場所づくり	0 公園	1 公園
		公園リノベーション工事の件数	1~2 公園/年	継続
		子どもへの意見聴取の実施	実施	継続
	施策 18 心身の健康づくりが行える公園等施設の充実	健康遊具の設置数	30 基	45 基
		めぐろウォーキングマップとの連携	実施	継続・強化
	施策 27 多様な人が活躍できるみどりの活用	トライアルボランティアの参加者数	112 人/年	増加
みどりを活かしたイベントの開催数		-	継続	
施策 29 民間の活力を活かした魅力あるみどり空間の創出	様々な主体が連携するための仕組みづくり	未実施	制度運用開始	
	市民緑地認定制度の活用検討	未実施	制度運用開始	